

平成26年度 椎葉村立大河内小学校 学校関係者評価書

4段階評価 [ 4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する ]

	本年度の重点目標	具体的対策(手段)及び数値目標	自己評価	保護者	学校関係者	結果の考察・分析及び改善策等	学校関係者からのコメント
豊かな社会力の育成	さまざまな体験活動を通して、感性を磨き、自分の思いや考えを的確に伝えるコミュニケーション能力を身に付ける。	① 核になる体験活動の実施	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども神楽を通して、全児童が地域の行事に参加しており、このことが豊かな社会力の育成に大きく役立っていると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなにいる時はしっかり挨拶ができていと思うが、一人一人になったときの挨拶が今一歩かなと思うことがある。</li> <li>地域の伝統文化芸能は、何も手立てを講じなければ2040年頃にはなくなってしまうだろうといわれている。子ども神楽が児童の豊かな社会力の育成に役立っていることを考えると、このまま続けていってほしい。</li> <li>あいさつは、確かにみんなできるとよくしてくれるが、一人だとあまりできていないように感じる。声をしっかりと出してあいさつしてほしい。</li> <li>遠くから頭を下げてくれるだけでもいい気持ちになる。</li> <li>車で通る時には、窓を開けてスピードを緩め、こちらからあいさつをするようにしている。</li> <li>児童があいさつしても、大人があいさつを返さなければ児童はしなくなるのではないか。</li> <li>授業以外の読書の時間はどの程度あるのか。→朝自習の時間に設定している。</li> </ul>
		② 子どもを鍛える場の設定	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>半数近くの家庭で親子読書にあまり取り組むことができていない。親子読書の利点を保護者に伝えるなど、積極的に啓発していくことが必要である。</li> </ul>	
		③ 教師を鍛える場の設定	3	3	3		
		④ 読書活動の充実	3	2	3		
		⑤ 基本的生活習慣の徹底	3	3	3		

授業力向上と学力向上	授業の工夫を通して、児童一人一人の学習意欲を高め、授業力及び学力を上げる。	① 分かる授業の実践	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別指導については、まだ十分ではないと感じている保護者もいる。わかる授業を工夫し実践していくとともに、児童のつまずきに対してきちんと対応するよう努めたい。</li> <li>・ 家庭や地域との連携をさらに深め、地域の人材を活用した教育活動を模索し、実践に結びつけていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参観日に、授業を参観したが、先生方が元気よく授業をしていた。授業に工夫が見られ、児童も楽しく取り組んでいた。</li> <li>・ 児童が納得するまで、徹底して教えてほしい。我が子は小学生時代、漢字を徹底して指導され、読んだり書いたりできるようになった。繰り返し練習させることで力が付いていく。</li> <li>・ 道徳の時間や人権教育で、相手の気持ちを考えることのできる児童を育ててほしい。</li> </ul>
		② 個別指導の充実	3	3	3		
		③ 基本的学習習慣の徹底	3	3	3		
		④ 業間活動の活用	3	3	3		
		⑤ 家庭学習の充実	3	3	3		
		⑥ 専門家による本物の授業の活用	3	3	3		
健康・安全と体力向上	特色ある体力づくりの活動を充実するとともに健康・安全への意識を高め、子ども一人一人が命を大切に、危険回避能力を高める。	① 体力向上プランの完全実施	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の基礎体力や運動技能については、職員、保護者ともに向上していると感じている。体育の授業を全校で行い、内容を充実させていることや業間を活用したパワーアップタイムが効果的であったと考えられる。</li> <li>・ 児童に、危険予知能力や危険回避能力を身に付けさせる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の基礎体力や運動技能の向上については、全員が卓球のスポーツ少年団に入っていることも好結果をもたらしていると思う。</li> <li>・ 山間部に住んでいる児童も、他の地域に行けば津波の被害に遭う恐れがある。児童に危機感をもたせ、釜石市の中学生のように、率先して避難することができるように指導してほしい。</li> <li>・ 津波や土砂災害等、いろいろなケースを想定して避難訓練をしておくことが大切である。</li> <li>・ 台風や大雨だけでなく、突発的なゲリラ豪雨等もある。公民館や消防団等と連携を密にし、情報を共有することが大切である。</li> <li>・ 防災訓練については、警察等の公的な機関に協力してもらったり、専門家を呼んで話を聞いたりする方法もある。</li> <li>・ スクールガードリーダーがいるとよい。</li> </ul>
		② 危険予知能力や危険回避能力の育成	2	3	3		
		③ 地域との協働による防災訓練の実施	3	3	3		
		④ 関係機関との連携	3	3	3		

望ましい食習慣の育成	学校と家庭・地域との連携を通して、食育に対する意識を高め、子ども一人一人が望ましい食習慣を身に付ける。	① 食に関する指導の充実	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童に望ましい食習慣をまだ身に付けさせることができていないと感じている保護者がいる。食育については学校と家庭の連携をさらに密にし、望ましい食習慣に関する情報を発信していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食育についてはきちんと取り組むことができおらず、自分自身が反省している。</li> <li>・ 児童は給食の好き嫌いはないか。→多少好き嫌いは見られるが、全員きちんと食べている。</li> <li>・ 味付けによっては、小児でも成人病にかかる恐れがある。薄味がよい。</li> <li>・ 大河内地区内や椎葉村内で生産されている作物を子どもたちにとってほしい。</li> <li>・ 米作りの体験活動は、米の成長過程を見せるところによさがある。児童に世話をさせたり、記録をさせたりするとよい。</li> </ul>
		② 農業体験の実施	3	3	3		
		③ 地産地消の推進	3	3	3		
		④ 地域人材の活用	3	3	3		

#### 次年度への取組

- ・ あいさつの大切さを指導し、一人の場でも自分から進んで元気のよい挨拶のできる児童を育てる。
- ・ 児童には読書の日を通して読書を推進するとともに、保護者に対しては、参観日や学級通信等を通して親子読書の利点を伝え、啓発を進める。
- ・ 毎時間の教材・教具の準備・工夫やめあてとまとめの設定等を通して分かる授業の実践を心がける。
- ・ CRTやNRTの分析結果を検討し、児童に身に付けさせなければならない力を見極めた上で、個別指導に力を入れていく。
- ・ 道徳の時間や人権に関する学習の他、全ての教育活動において、相手の気持ちを考え、人を思いやることのできる児童を育てていく。
- ・ 地域の消防団や関係機関と連携し、さまざまなケースを想定した防災訓練・避難訓練を実施し、児童に危険予知能力や危険回避能力を身に付けさせる。
- ・ 児童に望ましい食習慣を身に付けさせるため、親子給食の機会や文書等を活用して家庭との連携を深め、啓発を行う。
- ・ 米作りの体験活動は、田植えや稲刈りだけでなく、途中の生育の様子を観察して記録させるなど、年間を通して学習を充実させるよう改善する。